

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0171400682		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホーム よろこびの家		
所在地	北海道函館市栄町16番16号		
	(電話) 0138-23-2777		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成21年8月31日	評価確定日	平成21年9月24日

【情報提供票より】(平成21年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)13年9月1日		
ユニット数	5ユニット	利用定員数計	45人
職員数	43人	常勤	38人, 非常勤 5人, 常勤換算 36.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	5階建ての 1~5階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,400円	その他の経費(月額)	22,000~27,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無		有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	180円
	または1日当たり 1,330円			

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	45名	男性	17名	女性	28名
要介護1	10名	要介護2	15名		
要介護3	9名	要介護4	9名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.1歳	最低	64.2歳	最高	98.5歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	住慶クリニック・函館協会病院・さこ歯科・藤岡眼科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人を母体として複数のグループホーム、特定施設、訪問介護事業を展開しており、相互で情報交換や勉強会を実施し法人全体で介護の質の向上に取り組んでいます。職員全員でアンケートを取って決めた「自由を守ります。」を理念として買い物や散歩、地域の催し物への参加など可能な限り自由に選んで生活できる環境作りを心掛けており、年に1度利用者・家族アンケートを独自に実施し、結果を集計して改善点を見出し家族の意見や要望に応える取り組みが行われています。また、町内会主催の夏祭りや餅つきなどの催し物や地域の清掃活動に利用者と共に参加したり、中高生とのボランティア、体験学習など地域の人々との交流に取り組んでいます。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回外部評価では、市の担当者との関係を深める取り組みの点と介護計画書の更なる充実でしたが、市主催の勉強会や研修会に積極的に参加しており、介護計画書は電子化から手書きの記録に変更して利用者の日常生活での変化や気づきを詳細に記録しています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は日々のケアの取り組みの振り返りの機会と捉え、全員で実施し各ユニットの管理者がまとめて作成しています。また、外部評価の結果は職員全員で閲覧出来る場所に掲示し、各ユニットやホーム全体で話し合い改善に向けて取り組んでいます。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、2カ月毎に実施されています。議題は 一次救命処置の講習会 昼食の試食会 日々の暮らしについて 介護保険制度の背景について 防火対策について など
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 金銭の管理については、毎月報告されていると共に定期的に「よろこび便り 栄」を発行して写真で見易く掲載し、行事や日常の生活の様子を情報提供しています。また、ホーム独自の利用者・家族アンケートで家族の意見や要望を把握しホームの運営に活かしています。
	重点項目 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会主催の夏祭りや餅つきなどの催し物や地域の清掃活動に利用者と共に参加しており、運営推進会議の中でも地域の方々にも役立つ議題や情報を提供しています。また、小学校のクラブ活動や運動会、学芸会での相互訪問や中・高校生の体験学習、吹奏楽の演奏のボランティア訪問など地域の人々との交流を図っています。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自由を守ります、プライドを守ります、ゆとりを持ちます、思いを大切にします、分かち合い共に生きます」の事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼で理念を唱和することで、職員の理念への意識の向上と共有を図り、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。また、職員同士でも注意し合える関係性を築けるように取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して、町内会主催の夏祭りや餅つきなどの催し物やクリーングリーン作戦といった地域の清掃活動に利用者と共に参加している。また、小学校のクラブ活動や運動会、学芸会での相互訪問や中・高校生の体験学習や吹奏楽の演奏のボランティア訪問など地域の人々との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は日々のケアの取り組みの振り返りの機会と捉え、全員で実施し各ユニットの管理者がまとめて作成している。また、外部評価での結果は職員全員が閲覧が出来る場所に掲示し、各ユニットやホーム全体で話し合い改善に向けて取り組んでいる。		事業所及び管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しており、ホーム独自の利用者・家族アンケートを実施して、家族の意見や要望を聞きながらそれらを運営に反映させるように取り組んでいる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1度、定期的開催され、推進委員は利用者、家族、町内会長、包括支援センターの職員、函館市職員、管理者、職員で構成され、日常の取り組みや外部評価結果の報告などを議題に推進委員から寄せられた意見や提案をいただきホーム運営に活かしている。</p>		<p>議題として1次救命処置の講習会や昼食の食事会、介護保険改正の背景についてなど、看護師や医師も参加し専門的なアドバイスを頂いている。また、家族の思いや地域の方々からも意見を寄せいただき職員全員で話し合い改善に向けて取り組んでいる。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所は、市の担当者との連携の重要性について十分理解し、市主催の研修会や勉強会には、積極的に参加している。また、消防署職員による火災避難訓練などで指導・助言を得てサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
<p><b>4. 理念を実践するための体制</b></p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭管理は、事務所で一括管理され毎月、適正に報告されている。定期的に「よろこび便り 栄」を発行して写真で見易く掲載し、行事や日常の生活の様子を情報提供している。また、体調に変化が生じた場合は些細な事でも迅速に家族に報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族から寄せられた意見や苦情については苦情処理窓口担当者が一元管理し、管理者会議やスタッフ会議で改善策について話し合い改善に向けて取り組んでいる。また、運営推進会議の際に内容を報告し、委員からの意見や感想を伺い運営に反映させている。</p>		<p>年に1度、ホーム独自の利用者・家族アンケートで家族の意見や苦情、要望を把握し、それらをスタッフ会議や管理者会議で話し合い、職員間で共有し改善に向けて取り組んでいる。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職や異動の際には、速やかに異動するのではなく、事前に数回赴いて交流を図り段階的に利用者に馴染んで頂けるように取り組んでいる。また、職員の入替わりについては、来訪時や「よろこび便り 栄」で報告するなどして利用者のダメージを最小限に抑える取り組みが行われている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内で新人オリエンテーションを実施する他に、法人内外の勉強会、研修会への参加を積極的に支援し技術と知識の向上に努めている。また、外部の研修に参加した職員は、研修報告書を提出し、職員全員が閲覧できるようにしたり必要に応じて報告会も実施し技術と知識の向上に取り組んでいる。		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	管理者や職員はグループホーム協議会の親睦会や勉強会に参加し、他のホームとの情報交換や交流を図っている。また、交流で得られた情報は各種委員会や管理者を通じて職員全員に伝達されるシステムが構築され常に情報の共有が行われている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用前に本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、本人や家族から生活リズムや嗜好、習慣などの情報を収集し、職員間でそれらの情報を共有している。また、利用者が戸惑う事無く早い段階から馴染めるように「新たな環境」から「馴染みの環境」へと近づけるように取り組んでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	日常生活の中で利用者と一緒に食事の準備や家事、散歩や買い物など一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりが本人本位の生活が送れるように本人や家族から希望、意向を聞き、それらの思いを実現できるように職員間で話し合い支援している。希望や意向など収集した情報は法人内のパソコンを活用して全職員が情報を把握し、共有できる体制が作られている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理の下に介護計画は作成されており、利用者、家族の希望や意向、医師からの助言・情報やサービス担当者会議で職員からの意見やアイデアを取り入れ本人に適した介護計画になっている。</p>		<p>今年度は、生活の記録を電子化から手書きの記録に変更し、利用者の日常生活での変化や気づきを詳細に記録していますが、更に今後は本人が発した言葉や感情表現についてもケアプランに反映しやすい要素なので漏らさず記録することを期待します。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護支援専門員の適切な監理のもとに、3カ月毎に職員全員でモニタリングを行いケアプランの評価と見直しが行われている。また、利用者・家族の要望や状態変化に応じて期間終了前であっても都度、現状に即した介護計画の見直しが行われている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>その時々々の要望に応じて、散歩や買物、銭湯での入浴、通院の支援など柔軟に行っている。また、法人運営のクリニック、グループホーム、福祉施設、包括支援センターとの連携が行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と自由に受診や相談できるように配慮している。また、協力医療機関とは気軽に相談できる医師・歯科医師が確保されており、毎週、医療連携の看護師が訪問して健康管理や状態変化に対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針が明確にされ、契約時にターミナルケアの対応について説明している。また、看取りを希望する利用者については、担当者会議で終末期に向けての方向性を担当医師・看護師・家族・職員で話し合い全員で方針を共有している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報の扱いについては、個人情報保護法に対応した配慮がされた取り組みが行われており、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重して支援されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや思いを大切にしてい、散歩や買い物、家事や食事の準備などの支援をしている。また、日常の会話の中から食べたい物や行きたい所などの要望を聞き、外食やドライブ、自宅に行きたいなど本人の希望が実現できるように支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように、利用者と職員が一緒になって下ごしらえなどの準備をし、食事中も会話を楽しみながらおいしく食べられるような雰囲気作りを心掛けている。また、事前に利用者の好き嫌いを把握し、日常の会話の中で食べたいものなどの聞き取りをしてメニューに反映させている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低、週2回を基本として希望やタイミングに合わせて柔軟に対応している。また、時には、利用者の希望で近所の銭湯での入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を踏まえ、本人の残存能力を活かせるように食事の準備や掃除など様々な家事作業やレクリエーションに取り組んでいる。また、その日の体調や希望に添って、日常の散歩や買い物、気分転換のドライブなどの外出の支援が行われている。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人のその日の希望に応じて随時、散歩や買い物、ドライブなどの外出支援が行われており、野外でのバーベキューや外食、同法人の他のホームと連携して田植えに行くなど戸外に出かけられるように支援されている。また市内で行われるイベントや花見など利用者が楽しめる場所へ行けるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、夜間以外は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防火管理責任者が配置されて年2回以上、火災を想定した避難訓練を実施し、緊急時に全ての職員が速やかに対応ができるよう取り組んでいる。また、スプリンクラーや熱煙探知機、消火器の設置、カーテンや絨毯は防災加工するなどしてハード面の防火対策にも取り組んでいる。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量・水分摂取量は記録されており、過不足などの変化が見られる場合は職員間で共有して必要な栄養や水分補給の支援をしている。また、献立は栄養バランスやカロリーがしっかりと管理され、体調の変化に合わせたおかゆやきざみ食なども提供している。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングや居室の窓から季節によってイカ釣り船の漁火や花火大会が楽しめる風光明媚な場所に立地しており、ホーム内は全体的にゆったり広く、廊下や共用空間には椅子やテーブルが多く配置され思い思いに過ごせるスペースが確保されている。壁には絵画や行事の写真が飾られており居心地良く過ごせるような工夫がなされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は住み慣れた住まいの延長として使い慣れたテレビやソファ、箆笥などの家具が持ち込まれ安心して過ごせる場となっている。また、居室の様式替えや家具の配置替えも本人や家族の希望に添って支援されており、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。